



教授の呟き

第15回

リッチなIT途上国(?)の将来

東京海洋大学教授

苦瀬博仁

●●● 留学生から見た日本のIT

最近、南米からの留学生に「日本は、リッチなIT（情報技術）途上国だ」という手厳しい評価を受けた。一部には思い違いもありそうだが、夜間に現金を引き出すのにも苦労するし、カード決済も普及していないとのこと。

その後、話題は個人のID番号にまで及んだ。母国で個人番号を持っているから、なぜ日本にだけ番号制度が定着しないかを理解できない。「プライバシーや安全性を強調しすぎて、ITの利便性を放棄しているのではないか」というのが彼の日本感である。

そこでフランクフルトに長く住む日本人に「なぜドイツでは、デビットカードが普及しているのか」を聞いてみた。デビットカード普及以前には、身分証明書代わりのユーロチェックカードを示せば、欧州各国のスーパーやガソリンスタンドで欧州共通フォームの個人小切手が使用できたそうである。現在のデビットカードは、ユーロチェックカードに磁気テープが付き、小切手用紙が廃止されただけとのこと。

一方、フランスでは先にクレジットカードが普及したため、ドイツほどデビットカードは普及していないようだ。また、支払金額がその場で銀行口座から引き落とされるオンラインは日本が進んでおり、欧米ではオフラインが主で翌日にならないと

銀行残高は減らないとのことだった。

つまりドイツは、個人小切手が普及しトラブルに対処可能な法制度の積み重ねのある社会。その対極に、現金を持ち歩いても安全で、直ちに正確な残高を知りたがる日本がある。

●●● 長期的から短期的関係への移行

多摩大学の中谷巖学長は、わが国のITについて、次のような文化的特徴を挙げている。⁽¹⁾

日本人はフェース・トゥ・フェースの情報処理が得意で、終身雇用社会にあった。系列取引が主体で、メインバンクとの関係が緊密であった。本音と建て前を使い分けつつ、酒席で阿吽（あうん）の呼吸を培いながら長期的な関係を維持してきたのである。

しかし、IT革命により、基本的に「情報共有の可能な社会」となった。日本が得意とする長期的関係の社会から、即断即決の短期的関係へ移行し、長期的関係にもとづく情報共有の優位さが無くなったのである。

●●● IT戦略への壁

もう一つの文化的特徴として、「わが国は戦略的な思考に欠けている」としばしば指摘される。例えばロジスティクスのIT化でも、全体を束ねる戦略的思考が不足し、わが国のITワンストップ・サービスは、個別部門内でとどまることも多い。

原因には、改革のための挑戦を阻

む減点主義や縄張り主義があるので
はないだろうか。例えば80点を取れ
ば「優」だとしよう。それを「なぜ
20点もミスしたのか」と責められ
ば、挑戦したくもなくなるだろう。
大きな枠取りによるビジョンを作ろ
うとしても、前例を盾に取る縄張り
主義に縛られれば、戦略的思考を捨
てて自らの責任範囲だけを守ろうと
する個別主義に陥ることも仕方ない。

●●● 文化的特徴を利点に ●●●

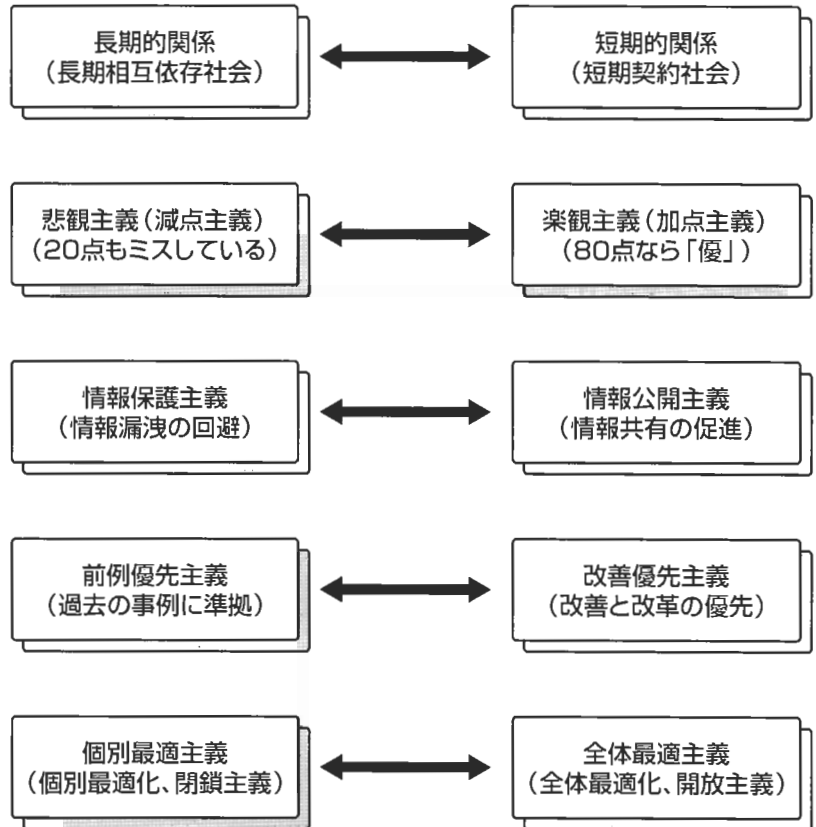
I T 革命が長期的関係から短期的
関係社会への転換を余儀なくしてい
るとしても、現在の日本の社会制度
や国民意識は、いまだ短期的関係
には適応できていないように思う。

しかし、安全な社会で「いつもニ
コニコ現金払い」ならば、トラブル
も少なく、変化の早い短期的関係
には向いているはずだ。

変化への適応能力や高いサービス
レベルの確保は、欧米流のマニユア
ルを使った均一な対応だけでは実現
しないだろう。わが国の教育レベル
や品質に対する意識の高さを保ち続
けることが、高度なサービスレベル
を維持しつつ、短期的関係に転換し
ていくことにも、有利に働くと考え
たい。

日本人の得意な J I T (ジャス
ト・イン・タイム) は、全体を見渡
す能力があってこそ成立するはずだ
から、実は戦略的思考にも長けてい
るのかもしれない。携帯メールの普
及をみれば、若者に I T への抵抗感

IT化の中で揺れる文化



はなさそうである。

このように考えてみると、わが国
の将来もきっと明るいに違いないと
思えるのである。

(1) 苦瀬博仁、「中谷巖氏講演「ロジスティクス経営革命」におもう」、ロジスティクスシステム、2003年12月号、日本ロジスティクスシステム協会、2003年

Profile

東京海洋大学 海洋工学部
流通情報工学科 教授
苦瀬博仁

(くせ ひろひと) 1951年東京生まれ。73年早稲田大学理工学部土木工学科卒業。75年、同大学大学院修士課程修了。81年、同大学大学院博士課程修了後、日本国土開発に入社。86年から東京商船大学助教授、94年より同大学教授。2003年大学統合により、東京海洋大学教授、副学部長。94年から95年の1年間、フィリピン大学客員教授を務める。主な著書に「付加価値創造のロジスティクス」(税務経理協会)、「都市交通一都市交通計画・都市物流計画」(丸善)、「マニラ・エンジョイ・トラブル」(論創社)、「明日の都市交通政策」(成文堂)

